

## 取り組みにおける成果と今後の課題

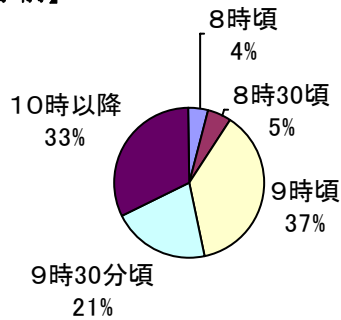
### 1 成果

#### (1) アンケート結果から

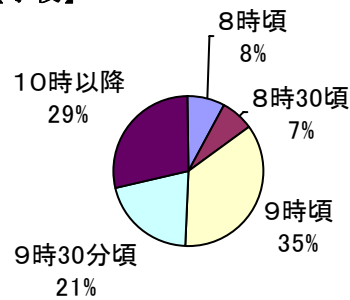
集団宿泊体験活動の事前及び事後（1 ヶ月後）に、保護者を対象に幼児の状況についてアンケート調査を実施した結果は次のとおりである。

①あなたのお子さんは、平日何時頃寝ていますか。

【事前】



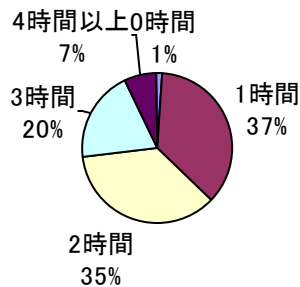
【事後】



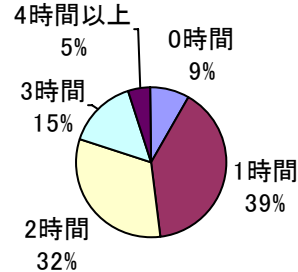
◇ 9時までに寝る子どもの割合が4ポイント増加した。

②あなたのお子さんは、平日テレビ（ビデオ等を含む）を見ていますか。

【事前】



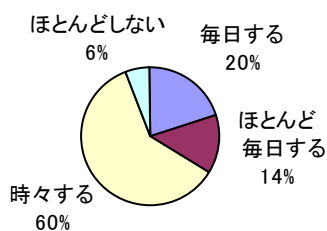
【事後】



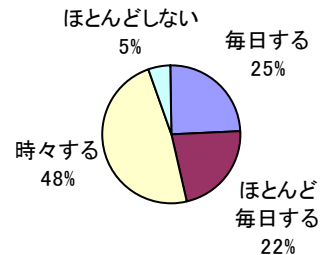
◇ 1時間以内の割合が10ポイント増加するが、3時間以上の割合はまだ多い。

③あなたのお子さんはお手伝いをしていますか。

【事前】



【事後】



◇ 「毎日する」「ほとんど毎日する」割合が13ポイント増加した。

## (2) 体験活動の前後に描いた幼児の絵から



- ◇ 「森」をテーマに、体験活動の事前及び事後に描いた絵からは、自身や友だちの活動の様子や、天候など具体的な姿が描かれた。

## (3) まとめ

- 社会教育施設を活用することで社会教育主事等からの支援を受け、施設や地域の「ひと・もの・こと」を活用した幅広いプログラムを展開することができた。
- プログラムで体験したことが、各家庭の生活において食事の準備や後片付け、着替えの整理などに反映された。
- 子どもの自立だけでなく、保護者が子どもと離れ、子どもについて考えるきっかけづくりの機会となった。

## 2 課題

- 1泊2日の設定が多く、コミュニケーション力などの社会性をはぐくむ機会ともなる長期宿泊体験には至っていない。
- 幼児期からの宿泊体験など様々な体験活動の有効性について理解を図るため、体験活動を支援する社会教育施設や地域の情報を継続的に周知・広報する必要がある。